

第7章 廃棄物

日本の廃棄物排出量は、高度経済成長による大量生産・大量消費により、大幅に増加しました。オイルショックで一時的に減少したものの、バブル期に再び増加に転じたため、政府は、循環型社会を実現するために各種廃棄物対策関連法を制定し、廃棄物排出量の削減・リサイクルを推進しています。

1. 廃棄物の現況

本市のごみ処理量は、毎年減少傾向にあります。近年の主な要因としては、人口の減少の影響が考えられます。

なお、平成29年度の不燃ごみの増加については、陶町水上の水害などにより、廃棄物が増加したことが原因となっています。

表24. ごみ処理量 (単位：t)

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
可燃ごみ	11,154	10,774	10,719	10,499	10,350
不燃ごみ	2,183	2,016	2,045	2,185	2,486
資源ごみ	1,341	1,267	1,262	1,206	1,298
集団資源回収	1,073	1,070	980	867	711
合計	15,751	15,127	15,006	14,757	14,845

資料：クリーンセンター

表25. 可燃ごみ処理量内訳 (単位：t)

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
地区収集	7,241	7,012	7,044	6,897	6,757
持込（市民）	331	296	372	391	398
持込（事業者）	407	435	372	386	414
許可業者搬入	3,124	2,987	2,879	2,769	2,734
汚泥搬入	51	44	52	56	47
合計	11,154	10,774	10,719	10,499	10,350

※許可業者：一般廃棄物収集運搬許可業者

資料：クリーンセンター

表26. 不燃ごみ処理量内訳 (単位：t)

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
地区収集	554	507	514	458	569
持込（市民）	106	105	126	131	171
持込（事業者）	590	642	518	803	959
許可業者搬入	15	17	17	19	17
焼却灰・スラグ	1,083	990	1,075	965	1,001
金属等引渡	△ 165	△ 245	△ 205	△ 191	△ 231
合計	2,183	2,016	2,045	2,185	2,486

※許可業者：一般廃棄物収集運搬許可業者

資料：クリーンセンター

※焼却灰・スラグ：可燃物焼却処分場で発生する焼却灰及びスラグ

※金属等引渡：不燃物最終処分場から業者への引渡数量。不燃ごみ処理量から除き、資源ごみ処理量に加算

表27. 資源ごみ処理量内訳

(単位：t)

		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
ビン類	カレット (白)	115	117	113	95	111
	カレット (茶)	99	106	94	79	95
	カレット (雑)	59	47	39	25	50
	リターナブル	18	23	20	22	18
	小計	291	293	266	221	274
缶類	スチール	31	26	25	18	17
	アルミ	54	42	49	40	43
	小計	85	68	74	58	60
紙類	古紙	591	522	565	583	567
	紙パック	3	3	3	3	3
	小計	594	525	568	586	570
その他	布類	46	44	49	51	56
	ペットボトル	82	82	75	75	73
	トレイ	10	1	7	6	5
	廃食油	8	9	7	8	9
	金属等	225	245	216	201	251
	スラグ	0	0	0	0	0
	小計	371	381	354	341	394
合計		1,341	1,267	1,262	1,206	1,298

資料：クリーンセンター

表28. 集団資源回収内訳

(単位：t)

		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
ビン類	リターナブル	4	4	4	3	2
	小計	4	4	4	3	2
缶類	アルミ	5	5	4	4	3
	小計	5	5	4	4	3
紙類	古紙	980	978	896	791	650
	紙パック	6	6	5	5	4
	小計	986	984	901	796	654
その他	布類	78	77	71	64	52
	小計	78	77	71	64	52
合計		1,073	1,070	980	867	711

資料：クリーンセンター

2. ごみの減量化

本市では、ごみの減量化と資源の有効な活用を図り、循環型社会の構築、生活環境の保全を図るため、啓発事業や集団資源回収の促進により、資源ごみリサイクル率の向上に努めています。近年、リサイクル率が低下している要因としては、児童数の減少や学校の統合などにより、集団資源回収の回数が減少していることや、環境意識の高まりから、大規模小売店が回収する資源ごみ量が増加していることが考えられます。今後は、大規模小売店へのヒアリングなどを実施し、資源ごみ回収量の実態把握を行う予定です。

表29. リサイクル率の推移 (単位：%)

H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
23.0	23.3	22.2	21.2	20.8

<資源ごみリサイクル率の算出方法>

資源ごみリサイクル率 = 資源ごみ(集団資源回収を含む) / [可燃ごみ{地区収集+持込(市民)} + 不燃ごみ{地区収集+持込(市民)+金属等引渡} + 資源ごみ(集団資源回収を含む)]

(1) 啓発事業

本市では、ごみの減量化に向けた市民意識の向上を図るために、ごみ処理施設の見学会、ごみの出し方出前講座など、様々な取組みを実施しています。

表31. ごみ処理施設見学会及びごみの出し方出前講座の実績

		H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
ごみ処理施設見学会	回数(件)	7	10	8	8	8
	参加者数(人)	313	325	333	324	309
ごみの出し方出前講座	回数(件)	3	7	4	2	3
	参加者数(人)	56	260	128	34	202

(2) 集団資源回収の促進

子どもたちの4R(Refuse、Reduce、Reuse、Recycle)活動の体験と地域貢献を目的とした、資源ごみのリサイクルを促進するため、PTAが実施している集団資源回収に奨励金を交付しています。

表30. 集団資源回収の奨励金交付実績

	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
実施回数(回)	20	20	20	17	17
紙類回収量(t)	987	984	901	796	654
奨励金交付額(千円)	4,440	4,428	4,055	3,581	2,944

資料：クリーンセンター

- Refuse・・・不要な物を買わないこと。
- Reduce・・・資源の使用量を減らすこと、物を直して使い続けること。
- Reuse・・・そのままの形で再利用すること。
- Recycle・・・再資源化して利用すること。